

HKFA Technical Report 2019

JFA第43回全日本U-12サッカー選手権大会 北海道大会

日時

2019年10月12日(土)
～10月14日(月・祝)

会場

室蘭市入江運動公園

決勝戦

北海道コンサ ドーレ札幌U- 12	(3-0) (5-0) Total 8-0	ASARI Football CLUB
-------------------------	-----------------------------	---------------------------

1 事業の概要 (大会主催者へのインタビュー)

<4種委員長 神谷 敦氏>

今年のコンサドーレは、ポテンシャルが高く周囲からの期待が高い年代です。一方ASARI.FCは、アンダーカテゴリーの世代から地道に取り組んでいるチームで、着実にチーム力が上がっていると思います。道南勢としては、プレイフル函館ジュニアの活躍もこのトーナメントでは光っていました。

この決勝については、是非、全国で戦えるチームが勝ってほしいと思っています。全国には、北海道にはいない素晴らしい選手がたくさんいます。そういう全国の選手、チームを肌で感じ、北海道のサッカーをまた一つ上のレベルに上げていてくれることを願っています。

2 両チームへのインタビュー (試合前)

HKFA TSG member

小林 俊也(HKFA 一貫指導)
宮本 英樹(HKFA U-14)
太田 浩司(HKFA U-12)
伊藤 公(HKFA GKP)
宮永 裕教(TSGチーフ)

<出場チーム>

北海道コンサドーレ札幌 U-12BLACK
遠軽はやぶさサッカースポーツ少年団
Arearea FC
旭川Grin Bear Boys FC
旭川ネイバース FC
北海道コンサドーレ札幌 U-12
祝梅サッカースポーツ少年団
幕別札幌FC・A
くりやまフットボールクラブ
プレイフル函館ジュニア
LIV FOOTBALL CLUB U-12
FC中標津A
ASARI Football CLUB
札幌ジュニアFC
北海道コンサドーレ東川 U-12
室蘭大沢FC U-12

<コンサドーレ札幌U-12 監督 村井 一俊氏>

今大会に向けて特別な練習はしていません。選手にとって、プロになるための1つの通過点ですから、この年代でやらなければならないこと、習得しておかなければならないことを練習で行っています。昨日までの戦いでは、全員が試合出場できている点が評価できます。課題としては、奪った後の判断、技術ミスなど細かな部分があります。選手自身がミスをミスと感じられるようにならないければ伸びません。また、試合中に頭が休むことなく、攻守の切り替え時に反応をしていくことがまだまだ課題です。決勝戦は、普段通り攻撃中心にたたかいたいと思います。もちろん球際の厳しさ、リスク管理は当然のこととして行っていきたいと思っています。

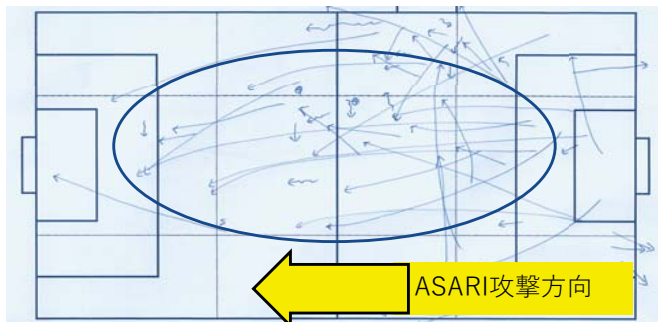
<ASARI Football CLUB 監督代理 伊藤 大輔氏>

今大会は、攻守のかかわりやoff the ballの動きなど、これまでのトレーニングの成果を出すことに主眼を置いて戦ってきました。本日の決勝戦でもトレーニングの成果を出してたたかいたいと思います。



3 成果① 攻撃の優先順位

コンサドーレは、サッカーにおける原理原則「ゴールを奪う」を目的に、ダイレクトプレーをまず第一に考えたプレーが見られた。また、プレーエリアを考え、ボールを動かすことで、相手を意図的に動かし、スペースを作り出すことで前へ進んでいた。一方、ASARIは、下記のミスパスの軌跡を見てわかる通り、長い距離のパスでゴールをねらいボールを失っている。優先順位を意識することは大事だが、ボールを失わずにゴールを奪うことを目指したい。



4 成果② 攻守の切り替え(ハードワーク)

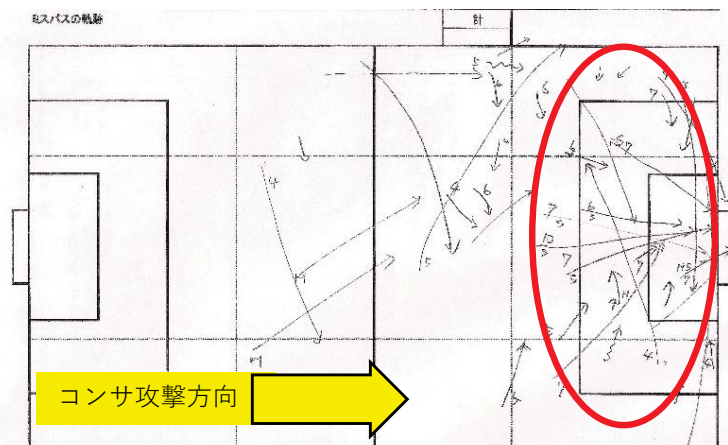
コンサドーレについては、攻撃から守備、守備から攻撃への切り替えが早かった。守備からボールを奪い攻撃になる瞬間に、優先順位を意識しプレーするだけでなく、どのスペースから攻撃すればよいかの意識が高かった。また、攻撃から守備への切り替え時は、1stDFの決定が早いだけでなく、関わる人数が多かった。例年以上にハードワークの「質」の高さを感じさせた。

5 成果③ ターンの技術

攻撃方向へのターン、逆サイドへ行くためのターン、ボールを失わずに前に進むために必要な技術が、コンサドーレの選手はできていた。この技術は、普段の練習から、プレッシャーの中で、動きながら行うことで身に付けてきたことは間違いない。全国大会では、さらに高いハイプレッシャーとなるが、その技術を十分に発揮してほしい。

6 課題① 積極的な守備

サッカーにおける原理原則「ボールを奪う」を目的に、コンサドーレの選手は積極的に高い位置からプレッシャーをかけボールを奪っていた。しかし、下記のボールを失った軌跡を見てわかる通り、ASARIは積極的な守備とはなっていなかった。相手をリスクトしすぎたせいか、守備ラインが低くなってしまい、攻撃側が自由にボールを保持できる場面が見られた。戦術として、リトリートした状態をつくって相手ボールを呼び込んで奪う戦い方もあるが、特に4種年代では、積極的に奪いに行くことを習慣づけることが大切である。また、こういった戦いの場面(カップ戦の決勝戦)で、厳しい攻防が繰り返される環境にすることで、全国や世界で戦える選手を育成していくことができると考える。



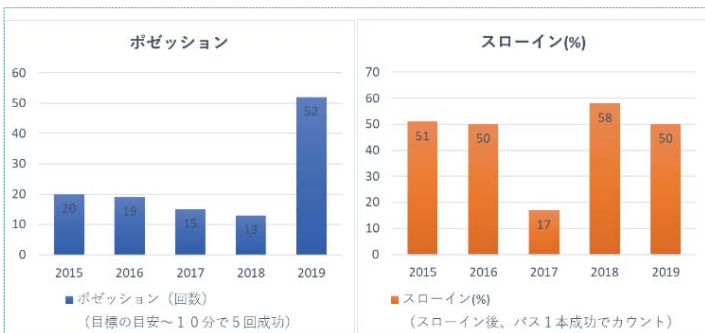
7 課題② クロスの守備

結果としては大差がついてしまったものの、コンサドーレの攻撃に対し、小樽のGKはクロス・CKに対して積極的に飛び出し、何度もピンチを救っていた。ただ、守備全体として見ると、簡単にサイドを使われ、自陣ゴール前で相手選手に簡単にヘディングさせてしまう場面が見られた。クロスに対して、相手よりも先にボールを触ること、ボールとマーカーの同一視できるポジションをとる必要があると感じた。



世界基準を日常に

日本のトップレベルを
目指す北海道!



〈データ比較〉ポゼッションの数が大幅に増加した。これは、積極的な守備が足りなかったことが要因である。スローインについては、シンプルにボールをつなぐ場面と相手の動きを制限できずにボールを失う場面があった。

8 課題③ リバウンドメンタリティー

決勝戦では大差がついてしまった。失点後や相手のプレッシャーが厳しく準決勝までのようなプレーができなくなってしまった時に、下を向いてしまう選手がいた。どんな試合でも、強いメンタリティーを保ちプレーをすることが求められる。代表になる選手はタフである。この年代からもタフな選手を数多く育てなければならない。

9 GKのプレー(守備)

(1) クロス

サイドからのクロスの攻撃が多く、適切なポジションを取ることができていなかったが、ジャンピングキャッチでボールをつかみ、素早く味方にスローイングする場面があった。また、クロスに対して、積極的に飛び出し、ゴールを広く守る場面が見られた。

CKでは、ゴールの中央付近にポジションを取り、キックされたボールに対して積極的に飛び出し、パンチングやディフレクティングをしていた。

(2) シュートストップ

味方のボールがミドルサードでパスカットされ、打たれたシュートに足しても、ポジションを修正しながら、ディフレクティングで対応できていた。シュートに対するポジションが取れていない場面もあったが、基本姿勢からタイミング良く構えて対応できていた。今後は、ボールにプレーする前の状況をしっかり行い、予測・判断・ポジショニングを向上させていきたい。

シュートに対してスムーズにプレーができていたが、ボールを一回でつかめない場面が多く見られた。ボールをキャッチするテクニックは基本であることから、さらに向上させていきたい。

9 GKのプレー(攻撃)

ルール改正により、ゴールキックを自陣ペナルティエリア内で受ける場面が多く見られ、GKを含めたビルドアップで攻撃を展開しようという意図が感じられた。

GKが起点となり、失わずにハーフラインを越した回数は7回あり、うち2回がゴール前までボールが運ぶことができ、シュートまでつながらなかった。優先順位を意識し、ボレーキックやオーバーアームスリーで前線の選手にボールをつなごうとしたが、失う場面が多く、ボールを失わないように、近い味方にアンダアームスローでボールをつなぐが、相手の前線からのプレスでボールを奪われ、失点という場面もあった。

GKが攻撃の起点として役割を果たすためには、キックとスローの質の向上とFPとの連携が必要でありGKがボールを奪ったらチーム全体が効果的に動き出し、厳しいプレスの中でもボールを失わず、相手ゴールを目指していきたい。

10 両チームへのインタビュー (試合後)

<コンサドーレ札幌U-12 監督 村井 一俊氏>

ボールを動かしながら崩すことができたと思います。これは、選手個々が連動したからです。全日まであと2か月。個人のレベルアップはもちろん、局面での判断、本質的な部分を追求していきたいと思います。

<ASARI Football CLUB 監督代理 伊藤 大輔氏>

コンサドーレと比べると足りないものがたくさん出た試合でした。相手の速いプレッシャーに対して、自分達のテクニックやトレーニングでの成果を出すことができなかったと思います。

まとめ

この4種年代で何を身に付けさせていかなければならないかを再確認できた大会であった。また、日常から、サッカーの原則にしたがったトレーニングを行っていく必要があると強く感じた。

最後に本TSG活動にご協力頂きました神谷4種委員長をはじめ、室蘭サッカー協会の皆様に深く感謝を申し上げます。

